

今週の 視点 論点

農 業ブームの影響を受け、各地でさまざまな農業ビジネスが立ち上がっている。その中から、今回のコラムでは「伝統野菜」にスポットライトを当てよう。

伝統野菜とは、その土地で古くから作られてきた野菜で、採種を繰り返していく中で現地の気候風土に適した品種として確立されてきたものだ。代表例としては、京野菜や加賀野菜などが挙げられ、山陰地方では島根県の津田カブや黒田セリ、鳥取県の伯州ねぎや砂丘らっきょうなどが栽培されている。

IoT農業が効果を発揮し始めている。奈良県では病害虫に弱い伝統野菜を、人工的に栽培環境のコントロールが可能な植物工場を活用し、安定的かつ効率的に栽培することに成功している。また、前回のコラムで紹介した農業ICTを駆使し、栽培状況の細やかなモニタリングや、匠の技の伝達を行うことで、伝統野菜の安定的な栽培に取り組む事例も見られる。

二つ目の課題が「流通のしにくさ」である。私たちの食卓に並ぶ野菜の多くは卸売市場を経由したものである。しかし、伝統野菜は特定の地域でしか栽培されていないため生産量が限られており、大量の商品をさばく既存の市場流通には適さないことが少なくない。また、大きさや形にばらつきがあることも、規格品の流通を前

流通に適した画一的な野菜では満足できない消費者が増えており、伝統野菜に対する評価が年々高まっている。伝統野菜の中には既に廃れて表舞台から姿を消してしまった幻の品種が多く存在したが、各地の研究機関、大学、農業者などが伝統野菜の復活プロジェクトを立ち上げ、再び栽培体制が構築される事例が増えている。

しかし、一度は廃れてしまった伝統野菜だけに、その理由をきちんと解消しなければ、収益性の高い農業ビジネスにはならない。

伝統野菜が現在の主力品種に取って代わられた理由は、育てにくいこと、流通しにくいこと、の2点である。始めに「育てにくさ」について見てみよう。現在一般的に用いられている野菜の多くは、掛け合わせにより品種改良されたF1品種（雑種一代品種）である。他方で、伝統野菜は基本的に自ら採種する「固有種」であり、F1品種よりも品質のばらつきが大きく、生産性が劣っている。また、病害虫に弱い品種も少なくない。

このような栽培面での弱点の解決策として、先進技術を駆使したスマ

提とした市場流通にはそぐわない。

そこで注目を集めているのが、生産者と消費者を直結する「ダイレクト流通」である。直売所や道の駅の人気上昇や、インターネットの普及により、生産者と消費者とが直接結びつくことが容易になってきた。インターネット販売や直売所では、市場流通では取り扱えないような小ロットの商品や、従来は規格外品とされてしまうような形の不ぞろいな商品でも販売することができる。

また、直売所やインターネット販売は、従来の市場流通と異なり、顔が見える流通である。特に、SNSの普及により、生産者と消費者が双方向にコミュニケーションを取ることができるようになり、生産者ご自身のファンを創出するようになった。

地域の文化と魅力を収益に変える 「伝統野菜ビジネス」



三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター
シニアスペシャリスト

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。16年4月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。著書に「IoTが拓く次世代農業—アグリカルチャー4.0の時代—」（日刊工業新聞社、共著）など。

さらに、欧米で広がっているCSA（Community Supported Agriculture）は多様化し、流通形態も大変革が進む中、これまでは小ロットで扱いにくいニッチ商品であった伝統野菜が、その土地でしか栽培できない「地域の魅力を引き出した高付加価値農産物」として生まれ変わりつつある。

大消費地から遠く競争力に欠けるとされてきた農業地域であっても、伝統野菜をうまく活用することで活性化することが可能なのである。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構常務取締役）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信記者）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センターシニアスペシャリスト）が交代で執筆します。



「アメリカはどこへ向かう」日米関係の行方

青山学院大学教授 会田 弘継氏

講師略歴 1951（昭和26）年、埼玉県生まれ。東京外語大英米語科卒業後、共同通信に入社。ジュネーブ、ワシントン各支局長、編集委員室長、論説委員長を経て現在、客員論説委員。日本記者クラブ理事。専門は米政治・日米関係。「追跡・アメリカの思想家たち」など著書、論文多数。

■石見政経懇話会 第248回定例会

日時 10月10日（火） 正午～午後2時
会場 ジョイプラザ（浜田市真光町）

■石西政経懇話会 第209回定例会

日時 10月11日（水） 正午～午後2時
会場 三好家（益田市幸町）

入会などの問い合わせは山陰中央新報政経懇話会事務局（☎0852・32・3477）、またはHPをご覧ください。